# 公益社団法人日本動物学会　2024 年度事業報告

## 1.　社員総会

定時社員総会　2024 年 9 月 13 日（金）長崎大学文教キャンパス　中部講堂
［承認］第一号議案　2023 年度事業報告
［承認］第二号議案　2023 年度決算報告（貸借対照表、損益計算書、及び財産目録）
［承認］第三号議案　2024 年度～2025 年度理事及び監事の承認
［承認］第四号議案　理事の報酬に関する定款変更及び報酬規程の制定

## 2.　学術集会の開催

2024 年 9 月 12 日（木）～14 日（土)、日本動物学会第 95 回長崎大会を長崎大学文教キャンパス（長崎県長崎市）で開催した。大会参加 791 名、高校生発表参加 144 名、動物学ひろば参加 250 名以上、一般公開講演会参加 126 名であった。発表件数は一般講演 392 題、シンポジウム・関連集会は本部企画（ナリシゲ）シンポジウムを含め全 24 企画（116 演題）であった。また、高校生発表 49 演題、動物学ひろば 15 企画、一般公開講演会 4 演題を実施した。
（公益 1）

## 3.　学術誌の刊行

Zoological Science（ZS）の刊行（41 巻 4 号～第 42 巻 3 号)。580 頁。ZS の編集は、編集委員会委員が行った。編集委員会は年 1 回開催。
Open Access ジャーナル Zoological Letters を出版した。OA ジャーナルのため、巻号はない。2024 年度の出版論文数は 18 論文である。
（公益 1）

## 4.　Web による広報活動の促進とニュースの発行

web サイトを利用して、大学等研究機関による職員募集、科学者によるセミナー、シンポジウムの開催通知、動物学研究トピックスなどを随時掲載した。ニュースを月 1 回発行。

## 5.　データベース構築(ZooDiversity Web)

ZooDiversity Web は Zoological Science、動物学雑誌、動物学彙報の論文について、DOI の付与、巻号年に沿ったアーカイブの公開、動物名データベースによる論文検索と PDF ダウンロードを実現しており、本学会の公益事業としても位置付けられる。これまで、動物学会による支援と科研費による支援を受けながら、ダイナックス社と協働して ZDW の構築を進め、基本的なシステムは完成しており、現在は、維持（データ更新を含む)・管理のフェーズに移行している。
（公益 1）

## 6.　研究の表彰

**・日本動物学会賞**（公益 1）
会員を対象とし、動物学研究に新たな知見をもたらした研究に授与。
学会賞等選考委員会の審査と理事会の議を経て、日本動物学会賞の受賞者を決定した。
【2024 年度受賞者 2 名】
・久保　健雄（東京大学大学院理学系研究科・教授）
　研究テーマ：ミツバチの社会性行動およびツメガエルの器官再生の分子基盤に関する研究
・田中　幹子（東京工業大学生命理工学院・教授）
　研究テーマ：脊椎動物の対鰭と四肢の発生と進化に関する研究

**・日本動物学会奨励賞**（公益 1）
会員を対象とし、今後の動物学研究を推進することが期待される若手研究者に授与。
学会賞等選考委員会の審査と理事会の議を経て、日本動物学会奨励賞の受賞者を決定した。
【2024 年度受賞者 2 名】
・豊田　賢治（広島大学統合生命科学研究科・助教）
　研究テーマ：甲殻類の性差構築および繁殖機構の解明に向けた生理生態学的研究
・中山　友哉（名古屋大学高等研究院・特任助教）
　研究テーマ：脊椎動物の生理機能や行動の季節変化を司る分子機構の解明

**・Zoological Science Award**（公益 1）
本学会の会員・非会員および国籍を問わず、前年に出版された Zoological Science 掲載論文の中から、各分野において、優秀でインパクトのある論文の著者に授与。編集委員により審議で授与される。

Zoological Science 編集委員会による選考と理事会の議を経て、Zoological Science Award の受賞論文を決定した。
【2024 年度受賞論文 7 件】
・Development of Genetic Markers for Sex and Individual Identification of the Japanese Giant Flying Squirrel (*Petaurista leucogenys*) by an Efficient Method Using High-throughput DNA Sequencing
Aki Sugita, Mayumi Shigeta, Moriko Tamura, Hiroyuki Okazaki, Nobuyuki Kutsukake, Yohey Terai
Zoological Science 40 (1): 24-31. https://doi.org/10.2108/zs220045　分野 Ecology
・Gravitactic Swimming of the Planula Larva of the Coral *Acropora*: Characterization of Straightforward Vertical Swimming
Asuka Takeda-Sakazume, Junko Honjo, Sachia Sasano, Kanae Matsushima, Shoji A. Baba, Yoshihiro Mogami, Masayuki Hatta
Zoological Science 40 (1): 44-52. https://doi.org/10.2108/zs220043　分野 Physiology
・Segment-Dependent Gene Expression Profiling of the Cartilaginous Fish Nephron Using Laser Microdissection for Functional Characterization of Nephron at Segment Levels
Takashi Horie, Wataru Takagi, Naotaka Aburatani, Manabu Yamazaki, Mayu Inokuchi, Masaya Tachizawa, Kataaki Okubo, Ritsuko Ohtani-Kaneko, Kotaro Tokunaga, Marty Kwok-Sing Wong, Susumu Hyodo
Zoological Science 40 (2): 91-104. https://doi.org/10.2108/zs220092　分野 Physiology
・Male Guppies Recognize Familiar Conspecific Males by Their Face
Shumpei Sogawa, Rio Fukushima, Will Sowersby, Satoshi Awata, Kento Kawasaka, Masanori Kohda
Zoological Science 40 (2): 168-174. https://doi.org/10.2108/zs220088　分野 Behavioral Biology
・A New Species of Bisexual *Milnesium* (Eutardigrada: Apochela) Having Aberrant Claws from Innhovde, Dronning Maud Land, East Antarctica
Atsushi C. Suzuki, Kenta Sugiura, Megumu Tsujimoto, Ryosuke Nakai, Sandra J. McInnes, Hiroshi Kagoshima, Satoshi Imura
Zoological Science 40 (3): 246-261. https://doi.org/10.2108/zs220085　分野 Taxonomy
・Wnt4a Is Indispensable for Genital Duct Elongation but Not for Gonadal Sex Differentiation in the Medaka, Oryzias latipes
Akira Kanamori, Ryota Kitani, Atsuko Oota, Koudai Hirano, Taijun Myosho, Tohru Kobayashi, Kouichi Kawamura, Naoyuki Kato, Satoshi Ansai, Masato Kinoshita
Zoological Science 40 (5): 348-359. https://doi.org/10.2108/zs230050　分野 Developmental Biology
・In Vitro Phagocytosis of Different Dinoflagellate Species by Coral Cells
Kaz Kawamura, Eiichi Shoguchi, Koki Nishitsuji, Satoko Sekida, Haruhi Narisoko, Hongwei Zhao, Yang Shu, Pengcheng Fu, Hiroshi Yamashita, Shigeki Fujiwara, Noriyuki Satoh
Zoological Science 40 (6): 444-454. https://doi.org/10.2108/zs230045　分野 Diversity and Evolution

**・日本動物学会女性研究者奨励 OM 賞**（公益 1）
本学会の会員・非会員を問わず、安定した身分で研究を続けることが困難であるが、強い意志と高い志を持って研究に意欲的に取り組もうとする女性研究者に授与。OM 賞選考委員会の審査と理事会の議を経て、日本動物学会女性研究者奨励 OM 賞受賞者を決定した。
【2024 年度受賞者 2 名】
・木矢　星歌（金沢大学特任研究員（学振特別研究員 RPD））
研究テーマ：活動依存的なドーパミン神経の機能変化による記憶制御機構
・松村　律子（山口大学時間学研究所助教（テニュアトラック））
研究テーマ：哺乳類の概日時計分子機構における新規機能ユニットに関する研究

**・成茂動物科学振興賞**（公益 1）
動物学の全分野でユニークな研究を展開する会員を振興賞の候補者とする。学会賞等選考委員会の審査と理事会の議を経て、成茂動物科学振興賞の受賞者を決定した。
【2024 年度受賞者 1 名】
・金谷　啓之（東京大学大学院医学系研究科・博士課程大学院生）
研究テーマ：ヒドラを用いた睡眠の進化的起源の探索

**・国際会議発表支援川口賞**（公益 1）
海外国際会議に出席する若手研究者を対象に授与。学会賞等選考委員会と理事会の審査を経て、国際会議発表支援川口賞の受賞者を決定した。
【2024 年度受賞者 2 名】
石田　祐（京都大学大学院理学研究科）　出席国際学会：EURO EVO DEVO 2024
成松　勇樹（広島大学大学院統合生命科学研究科）　出席国際学会：ENDO2024

**・動物学教育賞**（公益 1）
本学会の会員・非会員および国籍を問わず活発な啓蒙活動等により動物学の社会への普及に著しく貢献した個人または団体を対象とする。学会賞等選考委員会の審査と理事会の議を経て、動物学教育賞の受賞者を決定した。
【2024 年度受賞者 1 名】
丸山　宗利（九州大学総合研究博物館・准教授）
選考の対象となる活動の名称：出版・展示等を通じた昆虫の多様性に関する普及啓発

**・茗原眞路子研究奨励助成**（公益 1）
本学会の会員・非会員を問わず、基礎生物学（動物学）の研究に従事し、良い基礎研究であるが研究費に必ずしも恵まれない方への研究費の支援を行うことを目的とする。茗原眞路子研究奨励助成選考委員会による審査と理事会の議を経て、茗原眞路子研究奨励助成の受給者を決定した。
【2024 年度採択者 3 名】
・鹿毛　あずさ（室蘭工業大学大学院工学研究科）
　研究課題名：3 次元ニッチを生み出す遊泳繊毛虫の重力走性行動基盤
・水野　なつみ（福井大学医学部附属病院産科婦人科）
　研究課題名：精子におけるタンパク質翻訳後修飾の機能解明
・吉田　祐貴（農業・食品産業技術総合研究機構生物機能利用研究部門）
　研究課題名：ネムリユスリカの性決定に関わるマスター制御因子の探索

**7.　動物学の普及活動、生物科学学会連合による生物学の連携、協調活動**
国際生物学賞、国際生物学オリンピックの推進を図り、支援を行った。また、生物科学学会連合活動を生物系学会と連携して推進した。その他、WCMS2024（世界マリンステーション会議）の開催支援を行った。
（公益 1）

**8. 役員及び委員会活動**

**広報委員会**
1）学会ホームページの情報更新・管理維持を行った。
2）会員へのダイレクトメール情報に基づき、公募・研究情報・研究集会情報を学会ホームページに掲載し、月 1 回のメールマガジン配信を会員向けに行った。
3）2023 年度事業報告，決算書を学会ホームページに掲載した。
4）2024 年度日本動物学会賞、奨励賞、成茂動物科学振興賞、動物学教育賞、女性研究者奨励 OM 賞、茗原眞路子研究奨励助成の受賞者決定情報（授賞理由・要旨を含む）を学会ホームページに掲載した。
5）学会ホームページの役員名簿，定款，会長挨拶を更新した。
6）茗原眞路子研究奨励助成の要旨および報告書を学会ホームページに掲載した。
7）川口賞の報告書を学会ホームページに掲載した。
8）2025 年度日本動物学会賞、奨励賞、成茂動物科学振興賞、動物学教育賞、女性研究者奨励 OM 賞、川口賞、茗原眞路子研究奨励助成の募集情報を学会ホームページに掲載した。
9）書評 5 件を学会ホームページに掲載した。
10）日本動物学会関東支部第 77 回大会のお知らせを掲載した。

**出版・図書委員会**
・退職等のため中四国支部および九州支部代表の委員 2 名を交替した。
・また、これまで継続してきた、Springer Series“Diversity and Commonality in Animals”の継続刊行企画（Vol 4. Animal Behaviors（仮題）, Vol 5. Endocrine Systems in Animals（仮題））については、企画立案から 10 年以上が経過しているため再考し、新たな企画を立てるほか、学会員に企画を募集する計画である。

**将来計画委員会**
1. 2024 年 8 月 1 日にオンライン会議を実施し、キャリアパス小委員会の次期委員長の選出と、本大会で開催する若手交流会の準備状況について説明がなされた。
2. 第 95 回日本動物学会長崎大会にて、第 24 回男女共同参画委員会懇談会ランチョン企画　「ワーク・ライフ・バランスを考える～研究を無理なく続けるためのコツ～」への協力、および、第 1 回若手交流会を開催した。
3. 2024 年 9 月 18 日にオンライン会議を実施し、引き継ぎと長崎大会の反省会を行った。次期大会でも若手交流会の開催と男女共同参画懇談会への協力を引き続き行うことを確認した。
4. 第 96 回日本動物学会名古屋大会にて開催する第 2 回目若手交流会の趣旨、実施方法等についての打ち合わ

せをメールで行った。第 2 回若手交流会は、若手がより参加しやすくなるようにランチョン形式で実施することとした。
5. 第 96 回日本動物学会名古屋大会にて開催する第 25 回男女共同参画委員会懇談会の打ち合わせをメールで行った。名古屋大会では、ランチョンセミナー1 日目が若手交流会、ランチョンセミナー2 日目が男女共同参画委員会懇談会となることから、若手交流会と懇談会とをうまく連携させていくことを確認した。

**国際交流委員会**

**2025.03.28. 国際交流委員会の開催（オンラインにて）**

議事次第
今年度の委員の紹介（各支部の委員の先生方の自己紹介）
長崎大会での国際シンポジウム報告
名古屋大会での国際シンポジウムについて
国際交流セミナーの提案について

**【長崎大会での国際シンポジウム報告】**

シンポジウムタイトル
Evolution of animal body plans and life cycles: Novel adaptations towards new environments
開催日時：2024 年 9 月 1 2 日（木） 1 8時より（シンポジウム S5）
オーガナイザー：小口晃平（東海大・生物），三浦徹（東大・院理・臨海）
Kohei Oguchi (Tokai Unviersity), Toru Miura (The University of Tokyo)
シンポジウム主旨：
Tremendous diversity of body patterns is seen among metazoans, in which such morphologies have been acquired through evolutionary expansions into new environments. During the processes, animals have modified their life cycles, in association with the alteration of developmental programs forming their phenotypes. For example, metamorphosis in insects is a typical case, in which drastic phenotypic changes are carried out during postembryonic development. Such developmental alterations are suggested to enable animals to expand into new environments, but the knowledge is largely biased only to specific animal lineages (e.g., insects). In most of the animal phyla, especially marine invertebrates, almost nothing is known about the detailed patterns of phenotypic changes and the underlying developmental mechanisms. In this symposium, therefore, each speaker introduces the cases of evolutionary consequences seen in various animal lineages. In these cases, we can see developmental modifications that have probably acquired through evolutionary processes in relation to the expansion into new environments.
登壇者の氏名と講演順（敬称略）
1. 乾直人（東大・院理・臨海）
2. 田中幹子（東工大・生命理工）
3. 小口晃平（東海大・生物）
4. Maria Teresa Aguado (Georg-August-Universität Göttingen, Germany)（海外招待講演者）

他の会場での多数のシンポジウムと並行しての開催であったため、聴衆の人数はそれほど多くは無かったが、どの講演に対しても聴衆から多数の活発な質疑が出て、動物進化に関わる活発な議論がなされた。特に招待講演者である Aguado 博士のご講演は大変教務深く、聴衆も興奮して聞き入っている様子であった。

**【名古屋大会での国際シンポジウム企画】**

九州支部委員の山崎博史先生（九州大学）より会員からのシンポ提案の報告。
琉球大学の池田先生より企画提案があり、国際交流委員会の全会一致で採択が可決された。

・シンポタイトル：Reconsideration of smartness in animals: its similarity and divergence
・オーガナイザー：池田　譲（琉球大学）
・概要
Beside human, we know many examples of smart animals such as chimpanzees and crows that exhibit advanced learning abilities both in nature and in laboratory. One of shared features of these smart animals is large brain and sophisticated senses. Today such examples for smartness are getting expansion to other phylum even to invertebrates. Coelopid cephalopods (octopus, cuttlefish and squid) are such an exceptional invertebrate facilitated with megalobrain and lens eyes, performing extraordinary intelligence and unique behavior such seen in dynamic camouflage. Yes, they are smarter than we usually imagine. So, are cephalopods are human-like animals? Or, are they another mammals or birds? When we think about smartness and cognition of animals, we should look at their evolutionary history and life span that determine the present form of each species. In this symposium, we will focus on cephalopods as smart animal, and compare them with other animals including

primates, birds and arthropods, by which we try to reconsider what smartness is among animals.
・予定講演者
基調講演者: Alex Schnell (National Geographic/University of Cambridge)
講演者：高野 裕二（人間環境大学）
　　山﨑 由美子（新潟医療福祉大学）
　　森山　徹（信州大学）
　　川島　董（琉球大学）
・想定参加人数：100–150 名
・希望時間枠： 2 時間半（大会 2 日目午後[17:00–19:30]）

【国際交流セミナー】
こちらは特に提案がなかったため、開催の企画は現時点では無し。
積極的な企画提案が無い限りは（委員や会員の大きな負担となるため）無理に開催しないことを委員の間で了承した。

**男女共同参画委員会**

1. 第 95 回長崎大会にて、キャリアパス小委員会と合同企画として第 24 回男女共同参画懇談会：「ワーク・ライフ・バランスを考える～研究を無理なく続けるためのコツ～」を実施し、ランチョンセミナーとグループディスカッションを行った。グループディスカッションでは 5 グループにわかれ、下記の 4 つのテーマについて議論した。それぞれのグループには男女共同参画委員会委員がファシリテーターとして参加し、活発な議論が行われた。参加者は 52 名、シニア、中堅、若手研究者から大学院生と、幅広い世代の参加があった。
   ・キャリアパス（キャリアパス小委員会）
   【アカデミアと企業の違い，大学のキャリア支援，コネクションづくり，資格】
   ・勤務地とキャリアパス
   ・働き方と日々の生活
   【キーワード：情報収集，相互理解，各種補助制度の利用，本人の希望の明確化】
   ・研究と日々の生活
   【キーワード：授業コマ数，飼育，裁量労働制，ストレスチェック】
2. 第 22 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム（2024 年 10 月 12 日（土）中央大学茗荷谷キャンパス＆オンライン(Zoom webinar)開催）に参加し、活動報告のポスター発表を行うとともに、シンポジウム資料集に活動報告書を掲載した。
3. 男女共同参画学協会連絡会第 23 期総会、第 1 回運営委員会（2024 年 12 月 10 日（火） Web 会議）、および第 2 回運営委員会(2025 年 3 月 13 日（木）に参加した。

**教育委員会**

１）日本動物学会第 95 回大会教育委員会
日時：2024 年 9 月 11 日(水) 13:30~15:30
場所：長崎大学　教養教育棟 4 階 I 会場（A-41）
出席者：谷口俊介（担当理事)、鈴木信雄（中部支部 2022-2023 年度)、川野絵美（近畿支部 2022-2023 年度)、八木光晴（九州支部 2022-2023 年度)、和田洋（オブザーバー；2024-2025 年度　担当理事）

議題 1）として 2024 年度事業計画について担当理事より以下 2 点の説明を行った。
①各支部の支部大会を中心に高校生研究発表等の促進、生徒・児童の学習支援、啓蒙活動を実施する。
②本大会および支部大会での高校生研究発表における著作権侵害や剽窃などの懸念事項に対して、大会準備委員会の高校生発表担当者と密に連携をとり募集要項に注意事項を記載し喚起する。
今年度は①②共に、特に大きな問題となるような事例報告はなかった。一方で、大会準備委員と各支部の教育委員との間で、高校生発表に関してどの程度議論されているかは不透明であるため、少なくとも高校生発表に関して疑問点がある場合には教育委員会へ連絡をいれることを周知することを提起した。特に、遺伝子組み換え、動物実験、個人情報に関わるアンケート取りなどに関しては案内文も含め注意が必要である旨を説明した。

議題２）執行部より「小中高生の入会と発表に関する指針（案)」が出され、それを学会内での資料として理事会で承認する旨の相談があったため、特に、小中学生の発表を認めるかどうかに関して議論を行った。
委員からの意見として以下のようなコメントが出た。
・高校生のみに限定する方が良い
・今回の長崎大会では中学生のみの発表は認めなかった
・生物学オリンピックに中学生が代表として出たことがある

・過去の支部大会では中学生も発表した
これらの意見を総合し、小中学生の発表に関しては、「小中高生の入会と発表に関する指針（案)」で問題ないこと、特に、【注３】にある、学会大会長または支部大会長の裁量により小学生・中学生に発表を認めることができる。の点も問題ないことを確認した。

議題３）その他
高校生発表の案内文を将来的に再考することが提案された。特に議題１）に関連して、動物実験とヒトを対象にしたもの（個人情報保護）に対し、学会としてある程度の基準を設ける必要性を今後の教育委員会で議論することになった。

２）各支部の支部大会を中心に高校生研究発表等の促進、生徒・児童の学習支援、啓蒙活動を実施することに関して、各支部で活動を行った。詳細は、各支部の報告参照のこと。

**IT 委員会**

1. 演題閲覧システム K-con navi について、運営委託会社である杏林舎に委託し、演題閲覧検索システム K-con navi の一部改修を実施した。また第 95 回長崎大会の演題閲覧システムについて長崎大会実行委員会と連携しながら整備を行い、公開を行った。
2. 第 95 回長崎大会の際に IT 委員会を対面で実施し、活動方針を打合せた。(9/11)
3. 名古屋大会実行委員会と、大会 Web サイト及び演題・参加登録サイトの運営に関する打ち合わせをメールによって行い、第 96 回名古屋大会用の web サイトについて、長崎大会実行委員会へ管理運用の引継ぎを行った。
4. 第 96 回名古屋大会用の Web サイトについて、名古屋大会実行委委員会に構築および基本的な管理を委譲しつつ、システム管理を行った。
5. 名古屋大会実行委員会と、連携しながら、演題登録システム及び参加登録システムの構築を行い、試行テストを行った後に公開を開始した。公開後のサイトの管理は大会実行委員会に依頼した上で、システムを監理し、業者による修正が必要な案件については直接対応した。
6. 学会 web サイト及び大会 web サイトのシステム管理について、運営委託会社のダイナックスと相談しつつ行った。
7. 2021 年に動物学会に資料収集の許諾依頼があった国立国会図書館のインターネット資料収集保存事業について、動物学会の web サイト全体で参加することを決定し、学会事務局を通じて承諾書を提出し、国会図書館による収集作業が開始した。
   2024 年 12 月末から国会図書館にて、下記の URL でアーカイブ内容が公開された。
   https://warp.da.ndl.go.jp/waid/33441
8. 学会の web サイトの運営を委託している（株）ダイナックスより、サーバー老朽化のため現行支部サイトの運用を 2024 年 12 月末に停止したいとの通知があった。代替の支部サイトは本部サイトへ統合する形で改修を行うこととし、委託先である（株）ダイナックスと連携しつつ作業を行った。各支部にコンテンツの確認を行った後、2025 年 4 月より正式に公開した。

**ZDW 委員会**

ZooDiversity Web は Zoological Science, 動物学雑誌、動物学彙報の論文について、DOI の付与、巻号年に沿ったアーカイブの公開、動物名データベースによる論文検索と PDF ダウンロードを実現しており、本学会の公益事業としても位置付けられる。

これまで、動物学会による支援と科研費による支援を受けながら、ダイナックス社と協働して ZDW の構築を進め、基本的なシステムは完成しており、現在は、維持（データ更新を含む)・管理のフェーズに移行している。

具体的には、ZDW における動物名および系統樹からの検索に対応するため、ZS および ZL に新規論文が発行されるごとに、各論文について動物名のデータベースを作成する作業が必要である。当委員会設立時より本委員会活動の中核を担い、この新規発行論文のデータベース化を担当していた委員が 2024 年末に急逝され、現状では臨時的な対応で凌いでいる状況であるが、今後も継続的なデータベース作成が希求されることから、専門性と作業量を考慮しながら、安定的な体制構築を模索している。

**寄付委員会**

1）2024 年度の寄付件数は 137 件で、総額 743,572 円のご寄付を頂いた。年間 100 件以上という目標件数を達成することができた。なお、Syncable を通じた寄付は、40 件であった。40 件中 28 件で、寄付者が Syncable 側への運用手数料を負担して下さっており、本来、動物学会が支払う経費負担が軽減された。
2）2024 年 7 月 5 日～8 月 25 日の期間、中部支部によるクラウドファンディング（プレパラート・プロジェ

クト 2024：募集件数 20 件、3,000 円/件）を実施し、13 件、74,507 円のご寄付を頂戴した。
3）中部支部によるクラウドファンディングの実施報告について寄付委員会で情報を共有した。また、2025 年度は 9 月に開催する名古屋大会の「どうぶつがく広場」にて寄付を募るブースを設ける形式で準備を進めていることを報告した。

**会長**

・新理事、新監事にメール連絡し、支部長、各委員会委員長の引き継ぎを促した（9 月 10 日）。
・第 1 回理事会を実施し、会長、副会長を決定した（9 月 13 日）
・寺北明久前会長より、会長の職務引き継ぎをメールにて行なった（9 月 15 日）
・【生物科学連合】動物学会委員交代（会長　寺北→志賀、将来計画担当理事　田中→小柴、教育担当理事　谷口→和田）連絡をメールで送付した（9 月 19 日）
・BiOne からの Amendment to electronic licensing agreement の内容を確認し、UniBio Press に署名 OK の返事をした（9 月 25 日）
・【内藤記念財団】2025 年度新任選考委員候補者を推薦について意見を述べた（9 月 28 日）
・【生物科学連合】次期会長候補の推薦を理事会に募った（10 月 7 日）。
・成茂動物科学振興基金寄付者に学会の近況報告と会長交代の挨拶を行なった（10 月 7 日）。
・理事と監事に第 4 回理事会開催のお知らせ（召集）を送付した（10 月 31 日）
・【生物科学連合】第 30 回定例会議へ欠席のため委任状を提出した（12 月 11 日）
・本部役員による第 4 回理事会に向けた会合をズームにて開催した（11 月 20 日）
・本部役員にて WCMS2024（世界マリンステーション会議）への General Sponsor として 10 万円支出について検討し、動物学会ロゴ＋Zoological Science 表紙を組み合わせたロゴ掲載として支出する方向を決め、理事会に諮ることとした（10 月）
・本部役員会にて国際生物学賞 2024 受賞記念講演会 後援について承認した（10 月 24 日）
・学術著作権協会事務局からの管理委託契約約款の改訂内容（AI）について本部役員でメール審議し、AI 利用も含め、著作権管理委託の申し込みを継続することとした（10 月 17－30 日）
・本部役員にて生物科学連合の雇い止め問題のアンケートを受けた提言（案）について議論した結果、賛成と回答した（11 月 21 日）
・茗原眞路子研究奨励助成の関連したご挨拶、OM 賞報告のメールを送信した（12 月 12 日）
・ホームページ会長挨拶を作成し掲載依頼をした（12 月 25 日）
・【生科連】次期動物愛護管理法改正に関わる要望書について生科連委員で議論し、賛同することとした（1 月 10 日）
・NHK 科学文化部に「動物学雑誌」の合本（1937～9 年頃のもの）貸し出しを許可することとした。
・2025 年度山田科学振興財団推薦を行った（2 月 3 日～2 月 23 日）
・OM 賞と茗原助成の外部審査委員案を作成した（2 月 4 日～3 月 18 日）
・【生科連】生物科学連合定例会議に出席した（4 月 30 日）
・堀場カレンダーの抽選を行った（2 月 19－20 日）
・学会賞等選考委員の交代について理事会審議を行った。（2 月 28 日～3 月 3 日）
・動物学会一般の方の入会について役員で審議し、認めることとした。（3 月 12 日）
・会員より法人・団体としての個人情報の取り扱いに関して質問を受け、動物学会の個人情報取り扱いポリシーに関し検討する旨回答した（3 月 27 日）。
・OM 賞と茗原助成の選考委員を選定した。3 月 13 日
・中辻創智社への選考委員の推薦を行った。3 月 13 日
・国立自然博物館の設立請願書への動物学会写真資料の使用許可を出した（3 月 13 日）
・【動物学会名古屋大会】　動物学ひろば名古屋市東山動物園職員の一般演題聴講について役員で審議し、認めることとした（3 月 16 日）
・動物学会本部企画シンポジウムについて役員で相談し、シンポジウム 1 件を応募した。（3 月 31 日）
・株式会社ナリシゲ様へお礼とご挨拶に伺った。（4 月 25 日）
・6 月　吉田庶務幹事及び事務局と①代議員制度の導入、②動物学会大会開催地および 150 周年記念について打ち合わせを行った。
・6 月 1 日　近畿支部長に 2028 年の動物学会大会開催を近畿支部で引き受けていただけないか伺い、後にご快諾の返事をいただいた。
・6 月 11 日　第 5 回理事会を開催した。

**副会長**

1. 本部役員間のメール会議、ならびに事務局のオンライン打ち合わせおよび事務局での対面打ち合わせに参加し、解決すべき所掌事項に対して意見を出し課題解決に寄与した。
2. 財団からの選考委員候補者の推薦依頼に対し意見を出し、候補者を検討した。
3. その他、会長、会計、庶務、ならびに各委員会の職務を補佐した。

4. 本部役員間のミーティングならびに事務局のオンライン打ち合わせおよび事務局での対面打ち合わせに参加し、解決すべき所掌事項に対して意見を出し課題解決に寄与した。
5. 財団からの選考委員候補者の推薦依頼に対し意見を出し、候補者を検討した。
6. その他、会長、会計、庶務、ならびに各委員会の職務を補佐した。

庶務
会長、副会長、会計及び事務局長と連携を図りながら理事会の準備を含む動物学会の運営の補佐を行った。
2025 年の名古屋大会の開催について、適宜進捗状況を把握している。また、随時生じる判断事項について、会長、副会長、会計、事務局長と相談の上、決断するサポートを行った。
2024 年度第 3 回、第 4 回理事会を行うにあたり、議事次第のとりまとめおよび議事録の作成を行った。

会計
（1）会計担当として、毎月の収支計算書を確認するとともに、職員の給与額や賞与額の決定、各種委員会等で必要な経費の支出について、承認を行なった。
（2）2025 年 6 月開催の第 5 回理事会において、2025 年度予算案を提案し、承認を得た。また、2025 年度の資金調達および設備投資の見込みがないことについて説明し、承認を得た。
（3）本部役員として、助成金の学会推薦審査、名古屋大会の本部企画提案、支部や委員会からの相談対応等、様々な学会運営に関わる重要案件に対して、会長、副会長、庶務担当理事と共に対応した。

賞等担当
1）学会賞等選考委員会の審査と理事会の議を経て、2025 年度日本動物学会賞の受賞者 2 名を決定した。
2）学会賞等選考委員会の審査と理事会の議を経て、2025 年度日本動物学会奨励賞の受賞者 3 名を決定した。
3）学会賞等選考委員会の審査と理事会の議を経て、2025 年度成茂動物科学振興賞の受賞者 1 名を決定した。
4）学会賞等選考委員会の審査と理事会の議を経て、2025 年度動物学教育賞の受賞者（団体）1 名を決定した。
5）学会賞等選考委員会と理事会の審査を経て、2025 年度若手研究者国際会議発表支援川口賞の受賞者 2 名を決定した。
6）OM 賞選考委員会の審査と理事会の議を経て、2025 年度日本動物学会女性研究者奨励 OM 賞受賞者 2 名を決定した。
7）Zoological Science 編集委員会による選考と理事会の議を経て、2025 年度 Zoological Science Award の受賞論文 5 件を決定した。
8）茗原眞路子研究奨励助成選考委員会による審査と理事会の議を経て、2025 年度茗原眞路子研究奨励助成の受給者 3 名を決定した。
9）理事からの推薦と理事会の議を経て、 1 名に日本動物学会名誉会員の称号の授与を決定した。
10）理事会において 1 名の感謝状贈呈の推薦を受け、審議の結果、日本動物学会感謝状の贈呈を決定した。

大会引継ぎ担当
1）第 95 回長崎大会(2024 年)の資料を第 96 回名古屋大会(2025 年)に引き継いだ。
2）名古屋大会実行委員会からの質問に対し、長崎大会実行委員に協力を仰ぎながら適宜回答した。

**9. 支部活動**

北海道支部
**1．次回支部大会の開催について**
第 69 回支部大会を以下のように開催した。

第 69 回日本動物学会北海道支部大会
日時：2025 年 3 月 22 日（土）10:00～15:15
場所：北海道大学水産学部水産科学未来人材育成館
参加者：33 名
内容：一般発表（9 演題）、特別講演（西村俊哉 先生：北海道大学大学院水産科学研究院）、高校生発表（1 演題）、総会

**2．支部役員会の開催について**
第 1 回北海道支部役員会（メール会議）2024 年 11 月 11 日（月）
・2024-2025 年度の支部委員について選挙結果をもとにした委員の紹介
・今期の体制について

第 2 回北海道支部役員会（メール会議）2025 年 3 月 10 日（月）

・2023 年度（2023 年 7 月～2024 年 6 月）の支部活動報告および支部会計報告
・これまでの支部活動の報告（第 1 回支部役員会と支部講演会について）
・2026 年 9 月実施予定の本大会の準備状況説明と協力について
・2026 年度からの北海道支部委員体制の見直しについて
・支部 web サイト廃止と本部 web サイトへの統合について

**３．支部講演会の開催について**

第 600 回支部講演会
・日時：2024 年 7 月 23 日（火）13:00～14:30
・場所：北海道大学 理学部 5 号館 8 階 5-813 室
・演者：石郷岡 潤 先生（Max Planck Research Group Behavioural Genomics, Max Planck Institute for Evolutionary Biology）
・演題：A bird's-eye view on evolution of seasonal migration

第 601 回支部講演会
・日時：2024 年 9 月 19 日（木）16:30～18:00
・場所：北海道大学 理学部 5 号館 8 階 5-813 室
・演者：沼田 英治 博士（京都大学学術研究展開センター）
・演題：昆虫の光周性と概日時計

第 602 回支部講演会
・日時：2024 年 11 月 18 日（火）17:00～18:30
・場所：旭川医科大学　第 4 講義室
・演者：陽川 憲　博士（北見工業大学）
・演題：植物を用いた麻酔研究からわかることー麻酔のふしぎ

第 603 回支部講演会
・日時：2025 年 2 月 7 日（金）17:00～18:30
・場所：北海道大学 理学部 5 号館 4 階 5-407 室
・演者：山口 真二 博士（帝京大学薬学部 教授）
・演題：再生を促進する細胞の発見～ヤマトヒメミミズの再生モデルとしての有用性～

第 604 回支部講演会
・日時：2025 年 3 月 7 日（金）17:00～18:30
・場所：北海道大学 理学部 5 号館 4 階 5-407 室
・演者：渡邊 崇之 博士（総合研究大学院大学 統合進化科学研究センター　助教）
・演題：昆虫の脳・行動の性差はどのようにして生み出されるのか？
～脳・神経回路の性分化メカニズムを進化生物学的視点から眺めてみる～

第 605 回支部講演会
・日時：2025 年 4 月 18 日（金）17:00～18:30
・場所：北海道大学 理学部 5 号館 8 階 5-813 室
・演者：小川 洋平　博士（Washington University in St. Louis）
・演題：5 億年にわたる進化の過程で保存されたシス調節コード

第 606 回支部講演会
・日時：2025 年 5 月 7 日（水）15:00～16:30
・場所：北海道大学 理学部 5 号館 8 階 5-813 室
・演者：後藤 寛貴　博士（静岡大学理学部生物科学科）
・演題：クワガタムシにおける性的二型形質の発現機構とその多様性

**東北支部**

(1) 東北支部役員会
開催日：2024 年 7 月 27 日（土）　山形大学工学部百周年記念会館 1 F（対面）
＜議題＞
・理事会報告
・令和 5 年度決算報告
・令和 6 年度予算計画

・次期支部大会開催地について
・支部役員（岩手地区・秋田地区支部委員）の委嘱について
・これまでのフォトコンテストに代わるイベント開催について

(2) 2024 年度東北支部大会
開催日：2024 年 7 月 27 日（土）～28 日（日）　山形大学工学部（対面）
演題数：口頭 16 題
参加者数：52 名（うち、動物学会会員 17 名）

(3) 高校生による科学研究発表
開催日：2024 年 7 月 27 日（土）　山形大学工学部（対面）
演題数：ポスター 24 題
参加校数：11 校
参加者数：123 名（うち、教諭 11 名）
*ただし、大雨の影響で 2 校が当日欠席：２３名（うち、教諭２名）

(4) 令和 5 年度東北支部総会
開催日：2024 年 7 月 28 日（日）　山形大学工学部（対面）
＜議題＞
・理事会報告
・会計報告
・次期支部大会開催地について

(5) 親子で楽しむ動物学 24　～いろいろな動物をみてみよう～
開催日：2024 年 7 月 28 日（日）　山形大学工学部（対面）
参加者数：15 名

(6) 支部ホームページの移転作業
動物学会本部 HP の改訂に伴い移転作業を行った。

(7)「支部だより No.76」の配信（メール）
2025 年 3 月 26 日（水）
2025 年 7 月 26 日（土）～27 日（日）に 2025 年度東北支部大会（一般口演および高校生ポスター発表）と東北支部総会を東北大学青葉山キャンパスで開催すること（実行委員長：宮城教育大学・出口竜作会員）、「親子で楽しむ動物学」は高校生ポスター発表と同時開催を検討中であることを通知した。

(8)「支部だより No.77」の配信（メール）
2025 年 6 月 2 日（月）
7 月 26 日（土）～27 日（日）に開催予定の 2025 年度東北支部大会の参加・発表申し込み等大会の詳しい情報を通知した。参加・発表申し込みの〆切は 7 月 1 日（火）19:00 必着とした。同時に、期間中に開催される「高校生による科学研究発表会」および「親子で楽しむ動物学」への関連機関や地域への参加の呼びかけや広報のお願いをした。

**関東支部**

１）支部主催公開講演会の実施
日時：2024 年 7 月 20 日（土）13:00-16:30
会場：東京大学本郷キャンパス　理学部 2 号館講堂
「動物のさまざまなコミュニケーション~細胞から個体レベルまで~」

新村毅先生（東京農工大学）
「鳥類の個体間・母子間コミュニケーション」
古藤日子先生（産業技術総合研究所）
「アリから学ぶ社会的なコミュニケーションと健康の関わり」
島田裕子先生（筑波大学）
「寄生蜂ニホンアソバラコマユバチの生存戦略の解明に向けたマルチオミクス解析」

日本動物学会関東支部企画委員　守野 孔明、馬谷 千恵、山元 孝佳、宮本 教生

２）理事会出席
2024 年 9 月 11 日（水）16:00~18:15 長崎大学文教キャンパス

３）支部委員会の開催
2024 年 12 月 2 日 10 月 3 日（木）17:00~18:00（オンライン）

４）関東支部委員会の実施
日時：2025 年 3 月 13 日（火）11:30 ～
会場：オンライン会議（Zoom）
出席者（敬称略）：田中、柴、長谷部、伊藤、深津、鈴木、川村、和田、二橋、坂田、加藤、小柴、沓掛、蓮沼、吉田薫、二階堂、石川、大杉、馬谷
報告事項：
- 支部長報告
- 2025 年 3 月支部大会準備状況について（深津委員）

審議事項
- 2024 年度支部総会資料について（庶務：柴 、 会計：蓮沼委員）資
- 公開講演会（2025 年夏）の準備状況について（二階堂委員）
- 支部委員選挙の名簿作成時期について（柴）

５）関東支部第 77 回大会、支部総会の実施
日時：2025 年 3 月 15 日（土）9:30-16:00
会場：産業技術総合研究所つくばセンター　共用講堂
大会実行委員：
大会実行委員長　深津武馬先生（産総研・生物プロセス）、沓掛磨也子先生（産総研・細胞分子工学）、二橋亮先生（産総研・生物プロセス）
主催：日本動物学会関東支部会
共催：ERATO 深津共生進化機構プロジェクト、学術変革領域(A)共進化表現型創発

大会プログラム
9:00-　受付開始
9:30-　開会の挨拶
第一部（9:30-11:30）
公開シンポジウム「動物の行動、生殖、発生にみる延長された表現型」の実施
佐藤拓哉先生（京都大学）
「寄生虫ハリガネムシによる行動操作の仕組みと自然生態系での役割」
春本敏之先生（京都大学/産総研）
「昆虫の性を操る微生物たち」
丹羽隆介先生（筑波大学）
「寄生蜂の寄生戦略の分子メカニズムと進化」
森山実先生（産総研）
「カメムシの保護色形成を支える腸内共生細菌」
総会（11:30-12:00）
第二部（13:00-16:00）
ポスターセッション
13:00-14:15 前半ポスターセッション
14:15-14:30 高校生演題「修了証」手渡し
14:30-15:45 後半ポスターセッション
15: 45-16:00 ポスター優秀発表賞表彰式および閉会の挨拶

６）理事会出席
2025 年 6 月 11 日（水）13:00~16:00 オンライン

**中部支部**
１）令和 6 年度　日本動物学会中部支部大会を福井大学文京キャンパスで令和 6 年 12 月 7 日－ 8 日に開催した。大学院生・大学生の部門では 18 題の口頭発表，6 題のポスター発表，高校生・高専生の部門では 4 題の口頭発表( 1 題のオンライン発表含む)，16 題のポスター発表が行われた。参加者は現地会場が 112 名、オンラインが 1 名参加した。

日時：令和 6 年 12 月 7 日(土)～8 日(日)
会場：福井大学文京キャンバス総合研究棟 I（福井県福井市文京 3 丁目 9 － 1）
（https://www.u-fukui.ac.jp/cont_about/data/campus/campus_bunkyo/）
大会参加費：高校生・高専生・大学生・大学院生は無料、一般は 1000 円
12 月 7 日
公開シンポジウム「脊椎動物の進化と起源」と題し、3 名の先生方に講演頂いた。
浦田 慎先生(能登里海教育研究所)：「脊椎動物に至るボディープラインの成り立ち」
足立 礼孝先生（東京科学大学)：「Hox コードを超えた頭部骨格筋の発生」
Cantas Alev 先生(京都大学)：「Towards reconstructing vertebrate axial development *in vitro*」
会員と高校生・高専生などを中心としたポスター発表と口頭発表を行った。
夕刻に支部会議を開催した。
12 月 8 日
会員を中心とした口頭発表を行った。

２）第 96 回日本動物学会名古屋大会（2025 年 9 月）の準備状況
会期：令和 7 年 9 月 3 日（水：理事会・委員会）～ 6 日（土）
会場：ポートメッセなごや
会場予約について
５月に正式な施設使用申込書を提出ずみ。一般ポスター発表・企業展示・動物学ひろば・高校生ポスター発表などを実施する第二展示場については事前使用料を納付済。
参加登録・演題登録状況
・参加申込数は演題登録〆切(6/3)の時点で 761 名（一般 451 名、学生 310 名）
・一般発表は大会 2 日目午後～ 3 日目にすべてポスターで実施する。
　演題登録〆切時点で 495 題の応募があった。
・高校生ポスターは大会 3 日めに実施するが，98 演題の応募があった。
・公募シンポジウム・関連集会は合計 21 企画（121 演題）が開催される見込み。
・7/3 の時点で参加費収入 452 万円、懇親会収入 348 万円（446 人参加予定)、企業協賛金 359 万円、自治体・財団などからの助成金 138 万円を得ている。

３）支部独自での寄付事業
従来、夏休みの課題研究を支援する目的で、中部支部の寄付委員を中心にして夏休み時期にクラウドファンディング（プレパラートプロジェクト）を実施していたが、今年は 9 月の動物学会名古屋大会の一般公開（動物学ひろば）会場にて、寄付活動を実施する予定で準備を進めている。

**近畿支部**
1. 高校生研究発表会の開催
　・日時：2024 年 11 月 17 日（日）13:30～16:30
　・場所：奈良女子大学理学部 G 棟 G101 教室
　・発表形式：ポスター発表
　・表彰：参加者全員の投票により最優秀賞 1 件、優秀賞 6 件を選考、表彰した。
　・発表ポスター数：23 件（13 校）
　・参加者数：90 名

2. 公開講演会の開催
　2025 年春の公開講演会
　・日時：2025 年 5 月 10 日（土）13:30～14:30
　・場所：神戸大学瀧川学術交流会館大会議室
　・講師：佐藤拓哉 博士（京都大学・生態学研究センター）
　　『「延長された表現型」の仕組みとその進化：ハリガネムシは如何にカマキリを入水させるのか？』
　・参加人数：35 人

3. 支部委員会の開催
　第一回支部委員会：2024 年 11 月 17 日（日）　11:00～12:20（大奈良女子大学理学部）
　第二回支部委員会：2025 年 5 月 10 日（土）　11:00～12:15（神戸大学理学部）

**中国四国支部**
A. 支部の活動
（1）第 76 回支部大会（愛媛大会）を開催した（中国四国植物学会、日本生態学会中国四国地区会と共同で中

国四国地区生物系三学会合同大会として開催した)。
日時：2025 年 5 月 17 日（土)、18 日（日）
会場：愛媛大学城北キャンパス
参加者数：51 名（動物学会員)、153 名（全体）
実施内容：
(a)支部役員会
(b)一般発表：ポスター15 演題、口頭 19 演題
(c)高校生発表（動物学分野)：16 演題（総演題数 48 件、総参加者数 179 名）
(d)公開シンポジウム「生命が辿った 5 億年：動物と植物の進化過程の解明をめざして」: 3 演題（公開シンポジウム参加者数 200 名）
(e)総会
なお若手優秀発表賞として 16 演題から以下の 2 名を選び、総会で表彰した。
・矢野竜成 会員（広島大・院・統合生命）
「一次繊毛における NPY 受容体（1R,5R)の二量体形成・機能解析」
・津村晴仁 会員（山口大・院・創成科学）
「アカタテハ幼虫から脱出した *Microgaster subcompleta* の越冬能について」
また 2026 年 5 月に開催する予定の支部大会の準備状況について鳥取県委員の椋田崇生会員から説明を受けた。

(2) 中国四国地区生物系三学会合同大会の今後の運営方針について中国四国植物学会、日本生態学会中国四国地区会と話し合いを行った。

B. 各県の活動
(1) 山口県
名称：山口大学理学部主催 「サイエンスワールド２０２４～どうして？たのしいよ！ようこそ科学の世界へ～」（日本動物学会中国四国支部後援）
日時：2024 年 10 月 27 日（日）
場所：山口大学理学部 1 号館・総合研究棟・山口大学第 2 学生食堂「きらら」・山口大学生協 FAVO
内容：学生による科学体験企画を中心とした地域住民への科学への魅力発信（出展企画：225 件）
来場者：1116 名

(2)愛媛県
名称：愛媛県例会
日時：2024 年 12 月 15 日（日） 13:00～15:00
場所：愛媛大学理学部
内容：研究発表（口頭発表 5 題）
参加者：約 30 名

(3) 高知県
名称：土佐生物学会
日時：2024 年 12 月 21 日（土） 9：25～16：30
場所：高知大学理工学部
内容：研究発表（口頭発表 16 題，ポスター10 題）
参加者：一般 26 名，学生 45 名，高校生 7 名，計 78 名

(4) 広島県
名称：令和 6 年度広島県例会
日時：2025 年 3 月 7 日（金） 13:00 ～ 16:00
場所：広島大学理学部大会議室
内容：対面式のポスター発表 35 演題（18 題：大学院生、12 題：学部生）
参加者：約 60 名

(5)岡山県
名称：2024 年度日本動物学会中国四国支部会岡山県例会
岡山大学 次世代研究拠点事業：「哺乳類の行動適応を普遍的にデザインする脳機能」
研究拠点の創出 岡山大学-理化学研究所・交流セミナー
日時：2025 年 3 月 14 日（金）13：00~17：30
場所：岡山大学津島キャンパス理学部 2 号館 4F 9 講義室

内容：講演 8 演題
参加者：23 名

**九州支部**

**1）三学会合同佐賀例会**
日時：2024 年 11 月 16 日（土）13:00-17:00
会場：佐賀大学農学部 1 号館 1 階第 3 講義室

1. 栗田桃萌（佐賀大学大学院農学研究科）
限られた資源を利用するベニツチカメムシは雌雄で飛翔戦略が異なる

2. 藤田大輔（佐賀大学農学部）
イネのトビイロウンカ抵抗性遺伝子とその利用

3. 徳田　誠（佐賀大学農学部）・矢野文士（鹿児島大学大学院連合農学研究科）
塩生植物マツナ属の生存戦略とシチメンソウをめぐる昆虫群集

参加者：12 名

**2）三学会合同宮崎例会**
日時：2024 年 11月17日（日）　13:30～15:30
場所：宮崎大学農学部附属フィールド科学研究センター　2F 会議室

1）宮崎大学農学部畜産草地科学科 助教 右京 里那 氏
「生後早期の社会的隔離がデグー Octodon degus の行動傾向に及ぼす影響」

2）宮崎国際大学教育学部 准教授 満行 知花 氏
「私のこれまでの研究 ー外来タンポポの進化と、さまざまな生物の MIG-seq 解析で見えてきたものー」

参加者：10 名

**3）熊本公開実習**
日程：　2024 年 12 月 7 日(土)　10：00～17：00
場所：　熊本大学理学部 1 号館

1. 遺伝子の実体である DNA に関する講義（実習前半）

2. 自身の毛髪からの DNA 抽出、PCR および電気泳動による観察

3. 口内上皮細胞からの DNA 採取と、蛍光顕微鏡による細胞核の観察

4. 電子顕微鏡を用いた HeLa 細胞の細胞核観察

5. 蛍光実体顕微鏡を用いた遺伝子組み換えメダカ（光るメダカ）の観察

参加者：6 校から 18 名（高校生）

**4）三学会合同鹿児島例会**
日時：令和 6 年 12 月 7 日(土）午後 1 時 30 分より
場所：鹿児島大学理学部 220 号講義室

【高校生の研究発表 午後 1 時 30 分～午後 2 時 30 分】
建物に巣をつくるジョロウグモの 1 年間の記録
鹿児島県立錦江湾高等学校 サイエンス部クモ班
徳永 瑛,和田 千夏,末次 愛梨,山内 蓮,宮元 叶太,花井 龍之介,堀田 寛翔,坂口 太陽,馬場 美咲 (顧問:大迫 武治)

ムラサキツバメを取り巻く生き物たちの相互関係
鹿児島県立錦江湾高等学校 SR シジミ班
東 怜矢,西 風斗,中養母 史也,濱田 一馬,山本 華帆,大隣 花菜,瀬尾 日菜子(顧問:小溝 克己)

九州のゲンジボタルの明滅周期に関する研究
池田学園 池田高等学校 生物応答班
田口世南,早川葵,鎌田美舞菜 (顧問:黒木 和樹)

【一般講演 午後 2 時 45 分～午後 3 時 30 分】
マメ科植物のもつ植物ヘモグロビンの特徴と役割について
鹿児島大学理学部 福留 光挙 助教

参加者：33 名

**5）三学会合同長崎例会**
1. 日時： 2024 年 12 月 14 日（土） 14：30～16：00
2. 会場： 長崎大学環境科学部学生実験室 A

ライントランセクト法を用いたウミウシの群集構造と多様性比較
○加藤理子 1・八木光晴 2（1 長崎大院・総合、2 長崎大・水産）

ロボットを用いたチゴガニのウェービング同期の解析
○山口実希 1・岡田二郎 2（1 長崎大院・総生研、2 長崎大・環境）

日本列島のコオイムシにおける体サイズのクラインを考える
○大浦ひなた 1・松本弥優 2・原優梨亜 2・大庭伸也 1,2（1 長崎大院・総合生産、2 長崎大・教育）

ロウソクギンポ雄はどの感覚で保護卵を認識するか？～保護行動とホルモン動態を指標に～
○服部琢磨 1・近藤遼登 2・天谷貴史 3・竹垣毅 1(1 長崎大院・総合生産、2 長崎大・水産、3 長崎大・環シナ海セ)

カブトムシの外部形態と体脂肪率の個体群間比較
○普天間ちおり 1・小島渉 2・大庭伸也 1,3(1 長崎大院・総合生産、2 山口大・理、3 長崎大・教育)

コップ一杯で資源量推定は可能なのか？環境 DNA vs 底引きトロール漁
○浦川慧大 1・八木光晴 2（1 長崎大・水産、2 長崎大・水産）

参加者：19 名

**6）三学会合同大分例会**
日時：2024 年 12 月 14 日（土） 10：00～
会場：大分大学旦野原キャンパス 理工大講義室 104 号教室

大分市街におけるハヤブサの生態について
○植木 和宏（株式会社レックス九州）

大分県大分市七瀬川自然公園周辺におけるコウモリ類の分布の推定
○大分雄城台高校科学部 （顧問：安部 慶一郎）

ニホウサンショウウオとオオイタサンショウウオの Maxent による生息適地予測と絶滅リスク管理
○恩田 諒（大分大学大学院工学研究科）永野 昌博（大分大学大学院工学研究科）

オオイタサンショウウオとニホウサンショウウオの種間交雑における行動解析
○宮井 裕貴（大分大学理工学部）永野 昌博（大分大学理工学部）

大野川水系野津川におけるボウズハゼの捕獲記録（予報）
○大倉 鉄也（大分生物談話会）星野 和夫（大分生物談話会）秦 香織（大分生物談話会）

大野川水系における在来ヌマエビ類と外来種の置き換わり
〇永井 大翔（琉球大学大学院理工学研究科）今井 秀行（琉球大学理学部）

大分川水系で分布を広げる国内外来魚ギギ～2024 年速報：七瀬川と馬入川で確認～
〇高野 裕樹（大分生物談話会魚類班）

クリハラリス根絶後の高島
〇安田 雅俊（森林総合研究所）〇森澤 猛（森林総合研究所）

くじゅう連山の湧水調査
〇炭本 悟朗（NPO 法人おおいた生物多様性保全センター）

オオミズナギドリ瀬戸内海繁殖集団の保全：高島および周辺繁殖地における採餌海域および繁殖率の比較
〇渡辺 伸一（日本希少鳥類研究所・麻布大学）

絶滅危惧種の情報管理と時空間解析に特化した非公知性データベースの開発
〇明石 侑大（大分大学理工学部）永野 昌博（大分大学理工学部）

大分地質学会と県立自然史博物館構想への夢
〇利光 誠一（大分地質学会）山田 俊治（大分地質学会）堀田 秀俊（大分地質学会）

参加者：100 名

**7）三学会合同福岡例会**
日時：2024 年 12 月 14 日（土）13:00～
場所：九州大学伊都キャンパス 理学部講義棟（ビッグリーフ）202 室（対面開催のみ）

13:00-13:40 植物
「液ー液相分離によるオーキシン輸送制御」
古谷 将彦（福岡大学理学部地球圏科学科）
13:40-14:20 動物（講演取消）
「腸内細菌叢を人為的に再構築したミツバチの示す砂糖水応答」
末次 翔太（福岡大学理学部地球圏科学科）
14:20-15:00 生態
「クモヒメバチ類のクモに特殊化した数々の適応形質」
高須賀 圭三（九州大学大学院理学研究院）

参加者：22 名

**8）四学会合同沖縄例会**
（沖縄公開シンポジウム）
開催日：2025 年 5 月 17 日（土）
会場：沖縄大学 本館 同窓会館・玄関ホール
公開シンポジウム 15:40～17:40

「沖縄島の中南部の自然の過去・現在・これから」
コンビナー：富永 篤（琉球大・教育）

S01：沖縄島中南部の洞くつ性小型コウモリの現状
田村常雄（NPO 法人沖縄鍾乳洞協会）

S02：沖縄中南部の節足動物の特徴
佐々木健志（琉球大・風樹館）

S03：存亡の危機に立つ“世界でこの島だけのかたつむりたち”
久保弘文（琉球大・風樹館）

S04：湧水に育まれる渓流型アカボシタツナミソウ ― やんばるとは異なる進化の舞台

傳田哲郎（琉球大・理学部）

S05：沖縄南部に残存する両生類・爬虫類の地域個体群について
城間大輝（琉球大・院理工）・富永篤（琉球大・教育）

S06：地域の生物多様性増進について
澤志泰正（環境省沖縄奄美自然環境事務所）

総合討論：沖縄島中南部の自然環境や野生動植物の保全のために我々に何ができるのか？

参加者：198 名

**9）第 77 回日本動物学会九州支部大会**
（第 77 回日本動物学会九州支部大会を、九州沖縄植物学会および日本生態学会九州地区会と共催し、三学会合同鹿児島大会 2025 として開催）

日時：２０２５年５月２４日（土）～ ２５日（日）
会場：鹿児島大学郡元キャンパス理学部 2 号館
内容：一般講演：ポスター発表（一般発表：25 演題、高校生発表：12 演題）
口頭発表（一般発表：33 演題）
特別講演：1 演題

参加者：154 名

**10）日本動物学会九州支部委員会**
日時：２０２５年５月１６日(金) 10：30～12：00
場所：オンライン開催（ZOOM）

**11）日本動物学会九州支部総会**
日時：２０２５年５月２４日(土) 15：10～15：40
場所：鹿児島大学大学郡元キャンパス理学部 2 号館 D 会場

以上
作成日：2025.7.31